

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

温浴施設へのバイオマスボイラー導入事業

排出削減事業者名：株式会社クニマレコンフォートプラス

排出削減事業共同実施者名：一般社団法人低炭素投資促進機構

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	株式会社クニマレコンフォートプラス
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	オーベルジュましけ（温泉宿泊施設）
住所	北海道増毛郡増毛町別荘2 1 7 番地の1
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	一般社団法人 低炭素投資促進機構
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

温浴施設へのバイオマスボイラー導入事業

2.2 排出削減事業の目的

温浴施設の温浴・給湯設備用のボイラーを、A 重油ボイラーから廃食油を用いたバイオマスボイラーに転換することにより、重油使用量や CO2 排出量を削減する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

使用されているボイラーの一つを更新することにより、重油からバイオマスへの燃料転換を行い、CO2 の排出削減を行う。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

排出削減事業実施前から、温浴施設に温水供給を行うボイラーとして、A 重油ボイラーの他に廃タイヤボイラーが導入されていた（H21 年度導入）。また、かつ毎日廃タイヤボイラが一定時間稼動していることが判明したため、廃タイヤボイラの稼動停止時の廃油ボイラ稼動による過大なクレジット発行を防止するため、クレジット上限値として計画値を採用した。この変更に伴い、モニタリング方法の変更を行っている。

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

事業開始日 2012年 10月 22日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2015年 4月 1日 ～ 2017年 10月 21日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

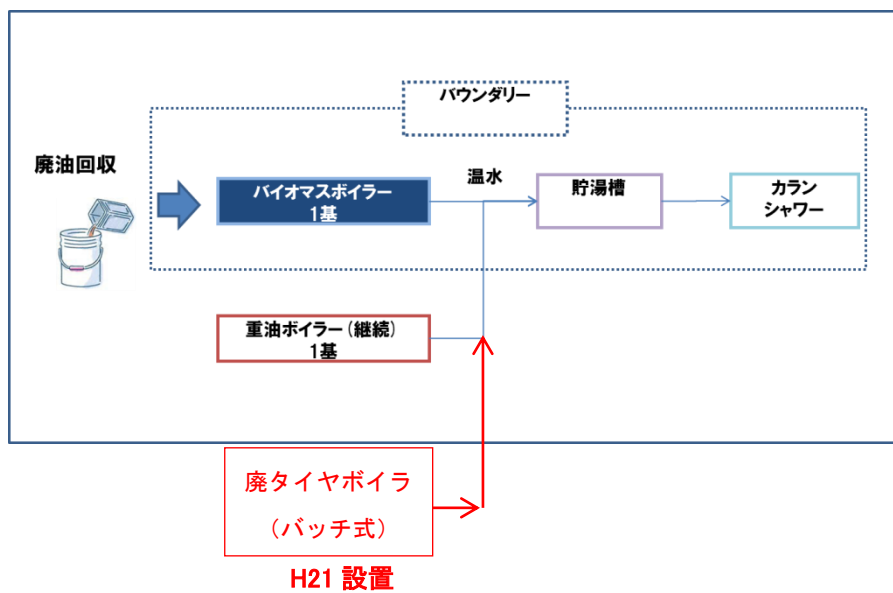
活動量・原単位は使用していない

4.2.2 活動量の採用根拠

該当なし

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

<事業実施範囲>



5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
<i>F</i> バイオマス、Pj	事業実施後のバイオマス燃料消費量	t	2015年度 55.734 2016年度 55.734 2017年度 31.150 合計 142.618	計画時または実績のいずれか排出削減量が少ない方を採用する。 (なお2017年度は204日しかないので、計画時の活動量を204/365で按分した値とする。) ※今回は計画時のデータを採用	事業計画時点で、温浴施設に温水供給を行うボイラーとして、A重油ボイラーの他に廃タイヤボイラーが導入されており（H21年度導入）、かつ毎日廃タイヤボイラーが一定時間稼働していることが判明したため、廃タイヤボイラーの稼働停止時の廃油ボイラー稼働による過大なクレジット発行を防止するため、クレジット上限値として、計画値を採用したことによる。
<i>HV</i> バイオマス、Pj	バイオマス燃料の単位発熱量（高位）	GJ/t	39.32	採用した活動量の根拠に基づき、対応する単位発熱量を採用する。 (計画時データを使用の場合、39.32GJ/tを採用、実績値を使用す	同上

				る場合 39.34GJ/t を採用) ※今回は計画時のデータを採用	
CO_2F_A 重 油, Pj	単位発熱量あたりの二酸化炭素排出係数	tCO ₂ /GJ	0.0708	デフォルト値を採用	該当なし
ε Pj	事業実施後のボイラ効率 (高位)	%	73.3	カタログ値を採用	該当なし
ε BL	事業実施前のボイラ効率 (高位)	%	84.2	カタログ値を採用	該当なし

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

本事業では、事業実施後の CO2 排出量はない。

6.2 ベースライン排出量

実績報告 期間	廃油使用量 (t)	ベースライ ン発熱量 (GJ)	排出係数 (t-CO2 / GJ)	CO2 排出量 (t-CO2)
2015年4月1日 ～2017年10月 21日	2015年度 55.734 2016年度 55.734 2017年度 31.150 合計 142.618	4,881.8	0.0708	345.6
EMBL				345.6

燃料供給会社からの請求書を合算した各年度の実績と、事業計画時に想定された活動量を比較し、活動量が小さい計画時の実績を採用する。

6.3 リークージ排出量

バウンダリーにバイオマス燃料の輸送、貯湯槽の熱損失が含まれるが、共に、排出削減量の5%に満たない為、リークージを考慮する必要はない。

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	<i>EMBL</i>	345.6
事業実施後排出量 (7.1)	<i>EMPJ</i>	0.0
リークージ排出量 (7.3)	<i>LE</i>	0.0
温室効果ガス排出削減量	<i>ER</i>	345

7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン －実績 (①－②)

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2015年4月1日 ~2017年10月21日)			
	単位	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
		(実績)	(実績)	(実績)
	t	142.6	4,881.8	126.0